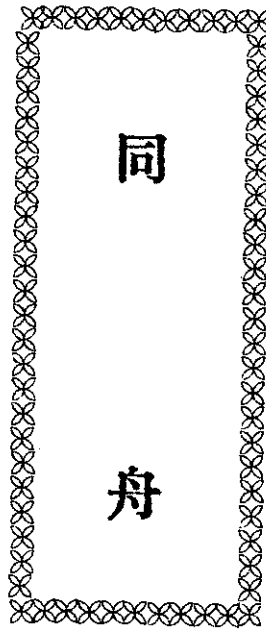


精 東 京 都 宅 地 建 物 取 引 業 協 會  
府 中 支 部

昭 和 4 2 年  
6 月 号 通 信  
第 4 2 号



昭 和 四 十 二 年 六 月 六 日 發 行  
發 行 者 精 東 京 都 宅 地 建 物 取 引 業 協 會

府 中 支 部

發 行 責 任 者 高 野 豐 次

記	事
一〇 編集後記	一、 滋賀 東京都宅地建物取引業協会設立総会開催
九、 消 息	二、 第四回（六月定例）支部理事会開催
八、 投稿の割当を依頼	三、 人 と 店
七、 登 山	四、 随 筆 ・ 律
六、 白 川 郷（続三）	五、 懇親旅行記 ・ 信濃路をゆく

社団法人東京都宅地建物取引業  
協会設立総会開催

横ヶ峠記

とき 昭和四十二年五月十八日午前十時  
四十分より

ところ 東京厚生年金会館

府中支部出席者 平井、栗山、栗原、山岸

辻、加藤(武)、吉野、結

城、横峠 関谷各理事

議案

第一号 昭和四十一年度事業報告承認の件

第二号 昭和四十一年度収支決算書承認の件

第三号 社団法人東京都宅地建物取引業協会設立承認の件

第四号 定款承認の件

第五号 網紀委員会規約承認の件

第六号 昭和四十二年度事業計画承認の件

第七号 昭和四十二年度収支予算承認の件

第八号 代議員の任期及び選出方法決定の件

第九号 役員選出の件

第十号 その他の件

以上の内第一号より第八号までの議案は

案件の通り可決

第九号議案役員選任の内、副会長及び監

事は各支部及びブロックよりの推せん名簿

通り承認された。

次に会長選挙に移つたが中野支部三山茂

雄君より該支部代議員の投票資格の有無に

関し緊急動議あり、これに対し選挙管理委

員長が有資格者と認定したるため動議は解

決されたがこれがため一時議事は中断した。

続いて支部長及び投票有資格者の代議員

により厳正に投票が行はれたがその結果は

次の通りである。

投票資格者出席数 二七〇名

投票者数 二六八名

開票の結果は

駒 沢 弘 明 君 一三九票

佐々木 義 夫 君 一二八票

無 効 一 票

で駒沢弘明君が社団法人東京都宅地建物取引業協会初代会長に当選、力強い就任挨拶があつた。尚この総会に来賓として安井謙田中一両参議院議員その他知名人が多数出席され祝辞があり午後三時四十分万才三唱により閉会となつた。

第四回(六月定例)支部理事会開催

とき 六月五日午後四時より

ところ ダイワ不動産

出席者 平井、関谷、栗原、結城、山村、

辻、吉野、横峠、各理事

鈴木 監事 高野

一、山村支部長よりの報告事項

三多摩地区協議会について

五月二十七日三多摩地区協議会が開催せ

られ本部役員選出を次の通り決定した。

副会長||中山 専務||中根 厚生||南出

公共用地||西村 健康保険||二宮

策委||松村 報道出版||

二、懇親旅行の会計報告

平井理事より春季懇親旅行の会計を次の

通り報告があつた。

○収入

会 費 二〇二五〇〇円

寄 附 八一〇〇〇〇円

前回残金 二〇〇〇〇〇円

三〇三五〇〇円

○支出

鬼押出見物三六〇〇円

有料道路一、二〇〇〇円

并当一九八〇〇円 土産物一〇〇〇円  
宿料一七〇七三五円 チップ一、〇〇〇円  
バス六〇〇〇円 計二五七三三五円  
○残金 四六一六五円 写真配布費を扣  
除し次回へ繰越

### 三、協議事項

府中市長との懇談会に対する予備協議  
六月八日午後一時より府中市長と当支部  
理事が懇談するが、予めこれに対する発  
言者並に発言要領等を協議した結果発言  
者は次の通り決定した。

山村支部長、辻副支部長  
吉野、横峠各理事

### 四、周知事項

(イ)協会は社団法人となる  
東京都宅地建物取引業協会は従来任意  
団体であつたが、六月一日より社団法  
人東京都宅地建物取引業協会となる。

(ロ)万国博覧会見物旅行積立について

昭和四十五年大阪府下に於いて開催の万  
国博覧会を見物する為、八千代信金は次の通  
り定期積立を募集中につき希望者は支部  
へ申込みたい。(支部として団体旅行  
の見込)

募集時期 四十二年三月―四十三年五  
月

掛金毎月 三〇〇円 満期額 七五〇〇円  
Aコース 二泊三日(詳細は平井理事  
にきくこと)

(ハ)業者名簿について

目下住宅新報社作成の業者名簿の購入方  
を勧誘中なるもこの名簿は業協会本部に  
於いても今秋発行の予定につき為念。

(ニ)府中市公函について

府中市公函は四部残余あり入用の向は辻  
副支部長へ申込みたい。

### (ホ)身分証明書について

今般出来上りの従業員身分証明書は夫々  
担当理事に配布済につき(一部五十円)  
入用の向は担当理事に申込まれし。  
但し、この証明書を作成した場合は写真  
二葉を添付し辻理事まで提出し支部長の  
捺印を受けられたい。

人と店 高野生

電話をしたが留守で奥様らしい声でどこ  
へ行つたか判らないと云う。

暫らくしてご本人から電話があつたのを  
幸いに電話で取材することにした。

その相手は府中白糸台にある村野不動産  
の店主村野武雄君で府中の産、大正六年生  
れと云うから本年五十才である。

府中に生れて府中で育ち学校卒業後は鮮  
魚商を経営しておつたが、昭和三十五年の

取引主任者資格試験に合格を機として直ち  
に同年より不動産業を開始した。

尤も府中人で府中に於いて不動産業を経  
営してゐる者は自分をおいて他にないだろ  
うと云い、従つて知既友人も数多く飛切り  
の儲けもしないかわりに経営は至つて順調  
で店員をおくことなく、店主独りで悠々気  
楽な商売を続けている。

根が温厚で一見地味には見えるが実直と  
堅実、流石は幼少よりの慣れとでも云おう  
か商売は実に上手である。

特に昨年度よりは不動産業の多様化をめ  
ざして村野食品店を併業し肉類鮮魚は勿  
論野采に至るまで食品一切を家族グルミ  
で取扱い所謂理想型の商形態で不動産業と  
共に盛況の一途を辿りつゝある。

趣味は忙中閑を見て庭いちりをするのが  
関の山、家庭には夫人のほか二男二女の子

宝がある。

以て自重自愛今後の発展を祈つて止まな  
す。

隨筆 " 律 "

金子生

古来宗教で言う因果律という言葉がある  
人間の行動においてこんな事をしたらこ  
うなるというのが因果である。因とは原因、  
果とは結果、律とは法律のよきなまりの  
ことである。

昔中国に白楽天という詩人があつた。或る  
日妻と共に自分の家の軒下を見ると二羽の  
つばめが飛んできて巢を作つた。夫婦のつ  
ばめはとても仲がよく協力をしながら巢を  
つくりそのうちめすのつばめはいくつかの  
卵を生んだ。おすのつばめは一生懸命にえ  
さをさがして飛んで行き、めすにえさをは  
こんだ。めすは幾日も幾日もじつと卵を温

めた。やがて卵がかえつた。数羽の可愛い  
子つばめがさえずり出した。

父と母のつばめは毎日のように空を飛びま  
わり虫をつかまえては子つばめの口へ運ん  
だ。子つばめはぐんぐん生長して食欲は数  
倍に増した。さて天気の良い日はかりはな  
い雨が降つたり嵐になつたり親つばめも思  
うように虫のとれない日もある。腹をへら  
した子供達は口を揃えて猛烈にえさの催促  
をする。親つばめはつかれたのも忘れ嵐の  
中へ飛んで行く。やつとえさを探して一羽  
の子にやれば他の子供は口をとがらして烈  
しく催促をする。又も嵐の中へ飛んで行く  
やつとつかまえた虫を次の子にやれば他の  
子つばめも先にえさを食べた子つばめも烈  
しく催促をする。二羽の親つばめは次々に  
飛んでいつて全力で虫を探すがとても子供  
達の空腹を満たすことができない。次々に

つかまえた虫とても自分ののどへは通らな  
い。空腹に全身疲労こんばんに達すれども  
なを子の飢えを見るにしのびずつかれた己  
の体にむちを打つて又も嵐の中へ飛んで行  
く。

或る日二羽のつばめは疲れ果て、語り合つ  
ていた。私達は一体いつ迄こんな骨を折  
らなければならぬのでしやうね。いやも  
うすぐだよ。今すこしの辛抱だよ。この子  
達が大きくなる迄だよ。夫婦のつばめはこ  
の日の来るのを楽しみに幾日も幾日も空を  
かけ廻つて虫をとらえ子供に口へ運んだ。  
嵐にうたれ羽も折れ羽毛も抜けもうすつか  
り疲れ果てた二羽のつばめはもうすこした  
この子達が飛べるよくなれば私達に虫を  
とつて食べさせてくれる今すこしの辛抱だ  
歯をくいしばりつかれた体にむち打つて子  
の為に空を飛んだ。子つばめはほとんど生

長して羽も伸び、翼をばたつかせた。或る  
日一羽の子つばめが空を飛んでみたいと親  
つばめにいつた。親つばめは手をとつて飛  
び方を教えた。こつやつて飛ぶんだよ。飛  
んでごらん子つばめは飛んだ。飛べた飛べ  
た親つばめはこれを見て涙を流して喜んだ。  
今迄の苦勞が一度に吹き飛んだやれやれこ  
れからは楽になれると思つた。然し子つば  
めはぐるぐると旋回し自分にひとりで飛べ  
る力があるのを知るやいなや若い他のつば  
めを追つてはるか彼方へ飛んで行つてしま  
つた。日が暮れても親の元へ帰らなかつた。  
次の日に他の子つばめもその通りであつた。  
親つばめは空つぼになつた巢で互に涙を流  
して嘆いていた。私達はこんなに苦勞して  
子供を育てこれから楽をしようと思つて全  
身全霊を使い果してしまつた。もう生きて  
行く力もないなのに子供は飛べるよりにな

つたら親をかえりみず他の若いつばめのも  
とへはしつていなくなつてしまつた。これ  
から先私達はこの疲れ果てた体で一体どう  
して暮らして行こう二羽の親つばめは悄然  
として悲嘆に暮れた。

白楽天はこれを見て言つた。つばめよつば  
め嘆く勿れ汝もその通りではなかつたかと  
たしかにそうである。人間社会と違つて禽  
鳥の間に孝行など存在しない二羽のつばめ  
も過去に於いてその通りのことをやつて来  
た。然るが故にこの様な報いを受けたと言  
う白楽天の教えである。私も先生からこの  
話を聞いて深く肝に銘じた。自分が今迄ろ  
くに親孝行してこなかつたのに我が子に對  
して親孝行しろというのは無理である。自  
分が親に對して行つたことを子供は見えて  
て大きくなるとその通りのことをして呉れ  
るのである。子に親孝行をしてもらおうと

思えば自分も親に對して孝養を尽くさなけ  
ればならない。私の両親共はずでこの世  
にない。私がほんの少しばかり親孝行をし  
た程度に私の子供も私に尽くして呉れるだ  
ろう。孝行したい時には親はなしとは正に  
古人の名言である。

筆者は金子商事の

金子重次君

懇親旅行記、信濃路をゆく、

鈴木記

晴天に恵まれた五月二十三日の朝総員  
四十数名は、カクタス観光のニューロマン  
スカーに乗車一路信州は別所温泉花屋ホテ  
ルへ向つて府中を後にする。途中ガイド嬢  
の美しい声にうつとり説明を聞き乍ら東松  
山のドライブインで一服し熊谷に入り国道  
十七号線を通つて高崎へ、高崎観音を左手  
に見ながら信越本線と平行し、いよいよ中

山道は安中から松井田へと入る。余りに  
も好天気なのでこの辺りから見ると妙義山が  
薄ぼんやりとしか見えず奇岩怪峰を望むこ  
とが出来なかつた。碓氷峠を登る前に横川  
の宿で昼食を取る。横川付近までは平坦路  
であつたがいよいよ碓氷峠にかゝると舗道  
もよくガードレールも完備の近代的な峠だが  
カーブの多い難所であることは昔も今も変  
りはない。屈曲実に一二〇数箇所、車が右  
に左にゆれるので隣りのアベック組がうら  
やましいが我はガイド嬢のクイズに無我夢  
中、定期便のトラックが交通安全週間を無  
視するかのようにドンドンとバスを超越し  
て行く、軽井沢へ出ると走行快適、気温も  
府中辺りとは相当違ふ様だ、中軽井沢から  
駅前を右折し峰の茶屋から有料道路となる  
が、この手前の千ヶ滝周辺からの眺望も又  
実に絶景である。

浅間高原の爽快なドライブ気分を満喫しな  
がら鬼押出しへ到着、世界三大奇勝の一つ  
と云われる鬼押出しとは今から百八十数年  
前に浅間山の大爆発で地上に姿をあらわし  
た熔岩の凝結地帯で現在でも浅間山は爆発  
を繰り返している活火山であるが、当時の  
爆発は相当なもので泥流は吾妻川、利根川  
を氾濫させ流出家屋は一千余死者一千百人  
以上を越え附近の野山は山火事となり、人  
々が泣きさげび泥と血にまみれてさながら  
地獄絵のようであつたと、なおその時に  
来た熔岩の流群を鬼押出しと呼ぶようにな  
つたと伝え聞く。大自然の脅威を感じ高原  
随一の奇勝に満喫し再び車中の人となる。  
軽井沢の別荘地帯を横に見ながら小諸の町  
へそして千曲川の流れと共に上田市へと入  
る。駅前を左折し上田橋を渡ると道巾が急  
に狭く悪路が続く然し信州の山々そして田

園ではお百姓さんが田植の最中でありこの様な姿は旅をしてこそ味はえるものである。目的地別所温泉花屋ホテルに午後五時に到着皆んな元気に旅装をとく。別所温泉地は湯川をはさんで両側に約十数軒の旅館があり適度の観葉気分を兼ねた保養温泉である。附近には北向観音堂、常楽寺、安東寺など鎌倉時代初期の寺院があるそうだ。花屋ホテルは実に静かな処でその名の通り今を盛りとつつじの花が色も種々と美しく咲いている。展望風呂からの眺望も又実に美しく上田の街を目下に千曲川の流れそして信州の山々は実に絶景である。そうこうする内に早や六時三十分となり一同は大宴会場へと移る。山村支部長、八千代信用府中支店長、辻副支部長の挨拶があつた後司会者横峠理事の進行によつて開宴、関谷理事の乾杯後は例により無礼講である。特に別所温

泉随一と云われる世にもまれなる美妓（中には野良仕事を終えて来た様な美妓もござつた）が多数あらわれるに及んで飲む程に酔う程に各自の自慢が始まり浪曲あり民謡、歌謡曲と又ハーモニカ合唱、童謡等でそれはそれはにぎやかである。その後温泉街ストリップ劇場のナンバーワン嬢の踊りがあり目の保養をさせてもらつた。一方一行の中には美妓を従がえて二次会をやるものもあり麻雀、囲碁等各自がそれぞれ信州での一夜を心ゆくまで楽しんだ様である。翌朝は九時三十分ホテルの女中さんに見送られ中には女中さんとの思い出を名残り尽きない方もあつた様で別所温泉を後にする。上田から菅平を通り鳥居峠へ向う。道は決して良いとは言えないが交通量が少なく不当に旅情を感じさせるものがあつた。鳥居峠の頂上にある茶屋で一服したがこゝ

の茶屋のおじいさん多少現世と離れているわけでもあるまいが至つて呑気で品物を売つても銭を取ることを忘れるのかと思つて定価より拾円も高く売つたりして何んともにくんでもにくめない田舎のオッサンを代表するタイプの人であつた。

鳥居峠を越す辺りの展望はなかなか捨て難く、これから信州にも別れて固定忠治で有名な上州は三原の宿を通り砂利道を一路吾妻川の溪谷に沿つて長野原を経て中之条町へそして岩井洞観音前のドライブインで昼食を取り、板東太郎は利根川と吾妻川の合流点渋川市内へと出る群馬県は県庁所在地前橋へと入るが北関東随一の都会だけあつてさすがは交通量が多いのに驚く。伊勢崎からは往路と同一順路を経て夕暮れ近く全員多少疲労の色が見えたが信州から上州を走破全線四百Kmの道程を元気一杯帰着した

因に

参加人員四拾参名 招待者名である。なおこの旅行に際して次の様な寄附があつたので重ねて披露しこの旅行記を終ることにする。

八千代信用金庫様	壱万円也
ダイワ商事様	壱万円也
たま土地様	壱万円也
共栄商事様	五千円也
府中開発様	五千円也
守屋商会様	五千円也
大邦不動産様	五千円也
紀乃国屋商事様	五千円也
八広不動産様	五千円也
山岸不動産様	五千円也
平和不動産様	五千円也
ひかり不動産様	五千円也
成立不動産様	参千円也

高野不動産 様 参千円也  
三協商事 様 清酒貳升

白川郷(統三)

高野生

白川郷の家屋は合掌造りで大抵は五階建である。貧乏人でも五階建のビルディングの様な家屋に住んでいるのだから大したもののである。

合掌造りとは建築学上非常に合理的に出来上つておるものらしく釘やカスガイなど一本も使わず、すべて木と木を組合せ、藁縄でしばつてあるだけである。従つて一番高い五階へのぼつて少しゆさぶつてみると家が動く様な気がする。

然しいつも一階から五階までを使つておるのではなく住居は一階だけで二階以上は養蚕に使用したものである。

今では営林署の山林労働が可能で容易に

金銭収入が得られるが、昔は現金収入の唯一の途は養蚕にあつたのでそうした五階建の家屋が実現したのかもしれない。

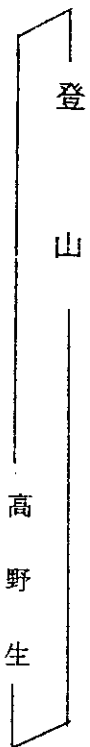
次に白川郷の学校は当時は本校が三校あり他は分教場である。然しこの分教場も生徒の数は僅か十人か十五人で勿論先生は若い学校を出たばかりの一人きりである。

ところが冬になると雪のため猫一匹も通らぬことになり、この分教場に集る生徒は一名もなく従つて先生は十日とか廿日を区切つて一軒づゝ泊まり込みで夫々の家の子弟に半年分の速成教育をする。勿論先生は宿泊料なしでその家に娘がいたとすれば娘付無料サーピスという格好となるかもしれない。

百万円道路やダムが完成した今日でも冬の事情は昔と少しも変りがないので矢張りこうしたことが繰り返えされておること

と思う。

(以下次号に)



日本アルプスとは北アルプス、中央アルプス及び南アルプスの総称である。

私は中央アルプスを除き北と南のアルプスには若い時分仕事(高山植物採集)で幾回か登山したことがある。

何といつても登り易いのは北アでは乗鞍白馬、白山等で登るのに危険が伴うものに北アの穂高、槍、つるぎそれに南アの赤石等がある。

然しどんな急峻な岩山でも大低肩の小屋あたりに行くと、二、三ヶ所の広大な平坦地があり、そこが所謂お花畑になつている。そしてこのお花畑には格好な岩や石それに池などが適当に配置されお花畑の満開と

もなれば誰か作つた庭園かと疑わざるを得ない自然の美しさがある。

このお花畑の花は概ね七月中旬ごろから咲き八月の中頃には大抵しぼんでしまふので高山地帯の草花は実に短い花の命である。私が高い山へ登つて本当によかつたと思うことはお花畑の美観と日の出をおがむ壮厳さの二つである。

そこで私達山で仕事をする者は山を歩く場合どんな所でも地下足袋で登山靴などは一切用いない。そうかといつて町へ出た場合、地下足袋では格好がつかないので登山靴にすることが多いが実際岩山にでも登るときには僅かの不注意から命とりになることが多いので先ず足かためをする必要がある。然し今の若い登山者を見ると風采のみに重きをおき、どんな岩山でも登山靴で食糧なども計画がなく、まるで銀座でも散歩



するつもりで来る人が多いが大体それが間違いのものになる。

又こうした山岳地帯は気象の変化が急激で今、満天に星を仰いだものが十分もせぬ間に俄雨となることがあるし、昼のさ中でも急に濃霧がおそつてきて、一寸先も見えぬことさえある。

こうした場合、くそ度胸をだして落ちつくことが第一で決してあせつてはならない。そして大低山の道しるべには石を積んであるのでそれをたよりに歩くことが一番の安全で若し全然行先がわからなくなつた場合、そこで一夜をあかす位の覚悟がなくてはとんでもない方向に進み大きな滝や岩山にでくわして進退きわまり遂に一命を落した者さえある。

私達商売で歩く者でも道に迷い、そのあげくはそこで一夜をあかしたことは一再で

はないのだから一般の方々には尚更注意が肝要である。

とに角高い山は夏もよし冬も又冬としての楽しみはあるが反面苦勞と危険が多いので素人で登山をするとしたら足と食糧それに夏でも防寒のかためなどして登山のベテランと同伴することが一番安全だと思ひ。

### 投稿の割当を依頼

同舟編集部

同舟の投稿は会員全般にお願いするところであるがなかなか実現せず仍つて先ず会の幹部から先鞭を願うこととして潜越乍ら編集部にて次の通り投稿の割当をしたので努めて幹部諸公は投稿してもらいたい。

六月号(本部総会記) 榎ヶ峠優君

〃(長野別所懇親旅行記) 鈴木喜久雄君

七月号(題自由) 結城 等君

### 編集後記

○水不足で田植えが出来ないところがある  
と聞く。これと余り関係がないと思うがいづれとも同じ客なしデーで実に淋しい限りである。

○今月は榎峠氏が本部総会記、鈴木氏が懇親旅行記それに金子氏が随筆を書いてくれ大いに紙面を賑わしてくれた又来月も皆様の投稿を切に希望する次第。

○六月始めというに気候は夏向である各位のおん身御自愛を祈つて止まない。  
昭和四十三年六月五日夜しるす。

高野 生

### 消息

○府中不動産 高橋耕徳氏は過般来より病  
気のため自宅療養中である。

○元会員 小林定吉氏は予ねて病氣のこ  
ろ五月二十日死亡。

- 七月号 (題自由) 平井進二郎君
- 八月号 ( ) 吉野亥太郎君
- 〃 ( ) 栗山新之助君
- 九月号 ( ) 加藤友三郎君
- 〃 ( ) 山岸正治君
- 十月号 ( ) 芦川正吉君
- 〃 ( ) 栗原常夫君
- 十一月号 ( ) 関谷育造君
- 〃 ( ) 辻金吾君
- 十二月号 ( ) 山村馬太郎君
- 〃 ( ) 加藤武君